

科目名	建設構造設計学 Construction structural design			担当教員	林 和彦		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	17134019	単位区分	履修単位
学習目標	・ 鋼とコンクリートを用いた橋梁の設計方法について、相互の共通点、相違点を比較しながら理解する。 ・ 鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリート、プレートガーダー、合成桁の基本的な設計ができる。						
進め方	講義を主体に授業を進め、教科書および配布プリントを併用して行う。項目毎に、演習問題を解くことにより理解を深める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 鉄筋コンクリート構造の基礎（14） （1）鉄筋コンクリートの力学特性 （2）鉄筋コンクリート部材の応力度 2. 鋼構造・橋梁工学総論(8) （1）構造用鋼材の性質 （2）橋梁の設計法 3. 橋梁に作用する荷重(6) （1）死荷重, 活荷重 （3）荷重の組合せ ----- [前期中間試験] (2)			・ 各種断面の鉄筋コンクリートの応力度の算定ができる。 ・ 鋼材の特徴、構造部材の力学的性質を説明できる。 ・ 橋梁の設計法を説明できる。 ・ 橋梁の設計で使用する荷重とその組み合わせについての考え方を理解する。 (B-2)			
	4. 鉄筋コンクリート構造の設計(14) （1）鉄筋コンクリートの耐力の計算 5. 鋼部材の耐荷性状とその設計(16) （1）引張材としての設計・演習 （2）圧縮材としての設計・演習 （3）曲げ材としての設計・演習 前期末試験			・ 鉄筋コンクリートの耐力が計算できる。 ・ 鋼部材の耐荷性能について、外力の種類ごとに破壊形態の説明ができ、道路橋示方書に基づく計算ができる。 (B-2)			
	6. 鋼材の接合(7) （1）高力ボルト接合概論と設計 （2）溶接接合概論と設計 7. プレートガーダーの設計(6) （1）各部の名称と機能 （2）主桁断面の設計 ----- [後期中間試験] (2)			・ 鋼材の接合の考え方とそれに基づく設計ができる。 ・ プレートガーダーの各要素の名称と役割を理解し、主桁の設計ができる。 (B-2)			
	8. 合成桁の設計(5) （1）合成構造の特徴 （2）合成構造の設計 9. プレストレストコンクリート構造(10) （1）プレストレストコンクリートの原理 （2）使用限界状態における曲げ応力度の算定 （3）終局限界状態における曲げ耐力の算定 後期末試験 試験返却(1)			・ 鋼コンクリート合成構造の特徴を説明し、設計の考え方が説明できる。 ・ プレストレストコンクリートの特徴を説明できる。 ・ プレストレストコンクリートの応力度、耐力を計算できる。 (B-2)			
評価方法	・ 定期試験の成績を 80%、小テストおよび演習課題の成績を 20%とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	構造力学Ⅰ（3 年）、建設材料学(3 年)、建設環境工学演習Ⅰ（3 年）、建設環境工学実験実習Ⅰ（3 年）→建設構造設計学(4 年)→建設環境工学設計製図Ⅰ（4 年）→建設環境工学設計製図Ⅱ（5 年）						
教 材	二羽：コンクリート構造の基礎、数理工学社（ISBN 978-4-901683-33-3） 鎌田・松浦：鋼構造・橋梁工学、第 2 版、森北出版（ISBN 978-4-627-40612-4）						
備 考	教科書、配布プリントの他に、適宜演習問題を行うため、ノート、関数電卓を準備すること。						